

自分らしさを表現できる制服とは

3年5組10番 桑原 瑞

1. はじめに

私はジェンダー問題について興味を持ち、その中でも学校制服のあり方について探究した。その中で立てた探究テーマは制服を採用している学校と採用していない学校の違いについてである。このテーマを選んだ理由は私は直接ジェンダーと関係がある訳では無いので身近な事で意識を変えられるものと考えた時に浮かんだのが学校の制服だったので、本来の制服の意義を知り現代との関わりを探究したいと思ったからだ。そして制服と私服のメリットデメリットを比較しジェンダー問題解決に向けてできそうな事はあるのか知りたかったのでこのテーマを設定した。

2. 序論

CCCマーケティング株式会社が企画した「学校総選挙プロジェクト」により2021年9月に全国の教育委員会で各都道府県立の全日制高等学校3205校を対象に“選べる制服”の採用率を調査したところ4割が学校の制服に選択制を追加していることが分かった。この制度は国際高校でも採用されている方法で女子のスラックス使用を許可するだけでなくネクタイ、リボンも自由に選べるなど制服の選択肢を増やして多様化をはかる取り組みをしている学校は年々増えてきている。しかしそこで新たな問いが生まれた。それは制服だけでなく私服も選択肢に取り入れている学校は全国にどのくらいあるのかというものである。この問いを立てた理由として学校制服があるという当たり前の現状に囚われず個人の意思を尊重しようと考え私服を取り入れている学校がどれほどあるのかが気になったからだ。これに対し私はどちらか一方だけを採用している学校はあるけれどどちらも取り入れている学校はないという仮説を立て、探究週間にて一年生から三年生までの国際生を対象にアンケートを取った。

3. 本論

2021年の各都道府県の教育委員会の調査によると47都道府県の中で私服を取り入れていない高校は26府県だった。私服登校を許可している他の21都道府県の中でも1番私服の制度を取り入れてるのは長野県で県内での導入割合は50パーセントである。それに比べて奈良県の私服高校は私立の東大寺学園高校と定時制の大和中央高校しかなく全日制の公立高校で採用されている学校は無い。NHK長野Web特集によると長野県で私服採用の高校が多い理由は、競争が終わったときの新制高校発足がきっかけになっている(斉藤光峻 2022年12月01日)。当時の学校関係者によると服装に重きを置いていなかったため制服か私服かは全て生徒に委ねていた。そこから現在まで生徒や保護者から意見が出されることも無かったのでずっと私服制度が採用されていることがわかった。しかしその一方で制服採用を望む生徒もいる。以前の探究週間のときに制服を採用する方がいいのか自分らしさを大切にするために私服を採用した方がいいのかを議題にしてディスカッションを行ったのですがどちらにも利点があるので片方に絞るのは難しいという結果になった。

そこで全国の学生は制服についてどう考えてるのかが気になったので調べてみると全国の高校生約1000人を対象に大手制服メーカーのカンコーが調査を行っていたことがわかった(カンコーホームルーム 高校生が考える「学校制服の必要性」2021年11月30日)。良い点として多

く挙げられたのは「毎日の服装に悩まなくていい。」「学生らしく見える」「服装による個人差が出ない」などだった。それに対して悪い点は「個性が出ない」「気温に合わせた温度調整が難しい」「制服1式の値段が高いので経済的に厳しい」などの点が挙げられた。これらを踏まえて私は制服は学生生活をより楽しくするための必要材料であり冠婚葬祭で着れるような正装でもあるので廃止するのはやりすぎだと思うけど好きな服を着ようと思ったら私服の方がいいと思うのでどちらか片方に定めるのではなく両方を採用すれば問題削減に繋がると考えた。

実際にこれと同じような考えをもった学校があり、ある取り組みをしていた事がわかった。それは2021年の6月21日に大阪の国際滝井高等学校で取られたもので「ノー制服デー」と名付けられている。これは名前の通り定期的に私服で登校する日を設けて、その日だけは制服を着ず自分の好きな服を自由に着られる日である。この取り組みはこの学校以外に私服率ナンバーワンの長野県の国立大附属高校や愛媛県の公立高校などでも行われていた。これらの学校がノー制服デーという取り組みを実現できたのはすべて生徒の声がかきかけだそう。ノー制服デーと同じように私服で登校する日を設けている大分大学附属中学校では個性を大切に多様性を認め合う社会をつくるきっかけにしたいという思いから生徒会を中心に企画され実践されたそうだ。私はこの取り組みに対してすごくいい取り組みだと思った。制服にも私服にもそれぞれ良さはあるけれど良いことだけではないので、定期的に混合させることで自分の好きなことを我慢せずより良い学校生活を送れると思う。学校で私服を着てくることを求めれば、TPOに合わせた服装選びができるようになるし、制服みたいに堅苦しくないのでいつもよりリラックスできるからいいと考えた。

4. 結論

これまでの探究を通して私は制服のスタイルを変えていけばよりそれぞれが持つアイデンティティを学校生活でも大事にできるのではないかと思った。制服にも私服にもそれぞれメリットはたくさんあるのでノー制服デーのようにどちらも着用できる制度を追加すればより学校生活を楽しめると思う。そして国際高校でも実現出来れば良いなと考えた。考えるだけでなく行動することがきっかけの一步になることをノー制服デーを計画した愛媛県や長野県の高校生の方から学んだので学校内に設置されている生徒会への意見箱を通して実施出来ればいいなと考えている。

今後の課題としては制服の意義についてより詳しく考えていけたらいいなと思う。制服は統一感を出すためのものではあるけれど個人の思想は大切にしていけるべきだと思うのでノー制服デーに一度取り組んでみて考えが変化するのか実験してみたい。

5. おわりに

私は探究をする前まで学校の服は制服でも私服でもどちらでもいいと思っていて特に深く考えたことは無かったけれど今回の探究を通して制服が作られた理由から制服を採り入れている理由、そしてあえて制服を作らず私服を採り入れている学校の取り組みについて調べたことで世界的に大きな問題になっていることでも身近な疑問から少しずつ解決することが出来ることを学んだ。制服か私服のどちらかに限定せずとも自分らしさを尊重できる制度を増やせたらいいなと思った。そしてこれからは制服で統一感を出しつつ少し自分らしさを付け足して、リボンではなくネクタイをつけたりして自分の好きな服装で学校生活を楽しもうと思った。

6. 参考文献・出典

カンコーホームルーム

【Vol.190】 高校生が考える「学校制服の必要性」(2021年11月30日)<https://kanko-gakuseifuku.co.jp/media/homeroom/vol190>

大阪国際滝井高等学校 ノー制服デー (2021年6月23日)https://takii-h.oiu.ed.jp/fromus/index.php?c=fromus_view&pk=1624450826

朝日新聞デジタル

国立大付属中学で私服登校の「カジュアルデー」 多様性認め合いたい
中沢絢乃 (2022年3月11日)

<https://www.asahi.com/articles/ASQ3B6WKM2QTPJB001.html>

CCCマーケティング株式会社

【“選べる制服”について考えるキャンペーン第三弾日本全国4割の高校が「女子のリラックス制服」を採用 “選べる制服”採用率を初調査！(2021年9月9日)

https://www.ccc.co.jp/news/2021/20210909_002181.html

NHK長野WEB特集

なぜ？長野に制服がない高校が多い理由

報道局経済部 (元長野局) 記者 斉藤光峻 (2022年12月01日)

<https://www.nhk.or.jp/nagano/lreport/article/000/07/>